熊日1959.11.02

国会調査団おこる

水俣病に県と議会は怠慢

漁民対策はゼロ

工場も汚水処理に無策

公聴会

水俣病の現状をみるための衆議院水俣病調査団（団長松田鉄蔵氏）の一行十七人は二日来熊、午後三時から熊本県議会議場に県当局、県議会水俣病対策特別委員会、熊本大学、県漁連の各代表を集めて公聴会をひらいた。国会がこの問題で調査団を派遣したのはこれが初めてであり、大きな期待がかけられているが、公聴会の席上、調査団は"県も県議会もこれまで何の対策も立てていないではないか""新日窒水俣工場のこれまでの廃水処理も全くメチャクチャだ"と地元側を叱責する一幕もあった。一行は二日朝熊本市を発って水俣市に向う。

六百トンも水銀流失

南葉熊大教授が公表

調査団は松田鉄蔵（自民、農林水産委員）丹羽兵助（自民、同）が長、高田連産省化学肥料第一課長、左近間産工業用水課長補佐、曽根田厚生省環衛部水質保全課長ら六人である。

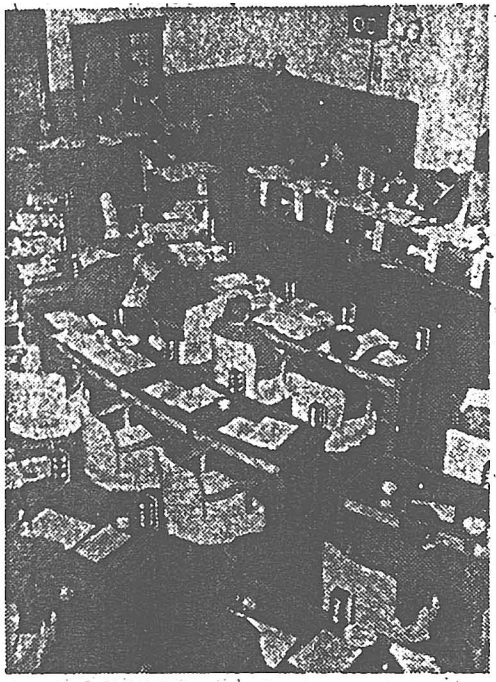
公聴会ではまず中本知事が水俣病と対策の経過を説明、松田団長が"重大な社会問題である。漁民など関係者の実状を現地でみて国会に帰り、社会党とも相談して最善の方法をとりたい"とあいさつした。

このあと田中県議会水俣病対策特別委員長、浜崎県衛生部長、鎌田厚生省食品衛生調査会水俣食中毒部会委員長、中村水俣市長、村上県漁連会長からそれぞれ事情をきき、質疑に入った。

そのさい柳田議員らは"県は廃水問題で何か新日窒水俣工場に申し入れたか。これまでどんな漁民対策をしたのか"などを質問したが県側から"また何も申し入れていない。熊大の研究を促進する立場で百万円予算に計上した"などと答えたため、調査団側から"漁民を守るためなぜ県はもっと積極的に動かないのか"と追及された。

また席上、南葉熊大教授が"工場側が発表したデータなどと工場は昭和七年から現在まで総計六百六トンの水銀を水俣湾に流し、うち約半分が湾外に流れたことになっている。海流の関係から最北限は亀北郡津奈木村、南は水俣市茂道地区までが水銀に汚染されている"と説明したのに対し松田団長は"私の知っている範囲では、そんなムチャクチャな工場は全国にない。驚くべきことだ"とのべた。このほか公聴会では熊大側から研究費の増額などが陳情された。

松田団長の話　水俣病のための特別立法については現在のところ全く白紙だ。まず現地を調べてみたい。しかしこれだけの大きな問題を放置しておくわけにはいかない。県も新日窒水俣工場も漁業団体もいままでこの問題に怠慢ではなかったか。



県会議場で開かれた水俣病公聴会